

会社の現況

1. 事業概況

令和2年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症が世界を席卷し、2度にわたる緊急事態宣言により人の移動に変化が生じるなど、日本の社会全体が振り回された1年となりました。

そのような中、食品を供給する物流の重要性が再認識され、冷蔵倉庫は重要な社会インフラとして事業継続が強く求められた1年でもありました。しかしながら、凍氷部門においては場外事業者を中心に催事（祭り・花火大会など）が全国的に中止、延期になるなど凍氷の売り上げは大きく減少し、また冷蔵・冷凍部門においては飲食店向けの食品の需要は減少し量販店向けの食品が堅調に推移するなど、物流の変化が起きる中、当社は市民の皆様へ食の安心・安全を確実に提供できるよう努めてまいりました。

当社といたしましては、こうしたコロナ禍の厳しい経営環境の中にあって、収入面においては市場内事業者及び市場外事業者への積極的な販路拡大を推し進めることにより売り上げを維持し、支出面においては人件費を極力抑え、高騰する動力費の節電努力等により当期純利益の確保を図ってまいりました。

結果、今期の売上は保管料と凍氷販売を合わせた売上総額は379,402千円（前期比97.6%）となり9,302千円減収となりました。

一方、支出につきましては支出総額で、342,258千円（前期比96.5%）となり12,418千円減となりました。

（1）冷蔵保管部門

容積建保管の売上は210,925千円で前期比101.9%となりました。一般保管に関しては冷凍品・冷蔵品を合わせた売上高が156,290千円で前期比95.1%となりました。

（2）凍氷部門

販売数量は591屯（前期比73.1%）で売上高12,186千円（前期比69.9%）となりました。

（3）両部門合計

売上高合計は、379,402千円で（前期比97.6%）となり、9,302千円の減収となりました。

2. 冷蔵設備状況及び製氷日産能力

冷蔵庫	新1号棟	1,060 屯		
	2号棟	4,350 屯	(内超低温	1,294.6 屯)
	3号棟	10,674 屯	(内超低温	268.0 屯)
	合計	16,084 屯	(内超低温	1,562.6 屯)

凍氷 製氷日産能力 1日当たり 20 屯

3. 課題

中長期的な課題としては、北部市場の開場から38年を経過し老朽化した市場の再整備を行っていく中で、市場内顧客の需要に合った冷蔵倉庫を開設者及び市場内事業者とどのように連携して維持運営していくか、またその中でどのように会社経営を図っていくか大きな課題となっています。

また当面の課題としては、経年劣化が進む3号棟冷蔵庫の維持・保全及び将来のフロンガス全廃にともなうグリーン環境を意識した自然に優しい冷凍機への変更を計画的に行っていくこと、今後も高騰すると見込まれる動力費について低廉な電力供給契約の維持に努力し、細やかな節電を実行していくこと、全国的に冷蔵倉庫作業員の確保が難しい中、今後の事業運営を見据えた人材確保を適宜行っていくこと、コロナ禍により需要の激減した凍氷を将来の需要に見合う運営方法に変えていくこと、などがございます。

以上の課題をしっかりと意識した運営をおこなうことで会社経営の安定化に努めてまいります。

4. 財産及び損益の推移

今期末における総資産は460,510千円で前期末に比べ10,782千円減少しました。また、純資産については23,736千円で前期末に比べ21,741千円増加しました。

損益状況では、当期純利益は21,741千円となり、その結果、繰越損失は前期よりも21,741千円減少し、176,264千円となりました。

また、借入金については借入金総額1,650,000千円に対し、今期の返済額は49,200千円で、期末借入金残高は159,900千円となっています。